



森繁久弥さん死去

96歳、戦後の芸能界で活躍

映画「駅前」「社長」の各シリーズやミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」などの舞台、さらにテレビ、ラジオと幅広く活躍し、大衆芸能の分野で初の文化勲章を受けた俳優で日本俳優連合元理事長の森繁久弥（もりしげ・ひさや）さんが、10日午前8時16分、老衰のため都内の病院で死去した。96歳だった。

大阪府出身。早大商学部に入ったが、演劇研の活動に熱中して中退、36年に東宝劇団へ。ロッパ一座を経て39年、NHKに入り、アナウンサーとして旧満州（中国東北部）に渡る。終戦で46年に引き揚げ、ヤミ屋をするなど苦労を重ねた後、再び役者を志し、東京・新宿のムーラン・ルージュへ。50年、NHKのラジオ番組「愉快的仲間」のレギュラーになったことで、芸達者なコメディアンとして注目され、映画・演劇界から次々に声がかかるようになった。

52年からのサラリーマン喜劇の映画「三等重役」シリーズが出世作となり、「警察日記」「夫婦善哉」などの作品のほか、「次郎長三国志」「駅前旅館」「社長」などのシリーズが人気を呼び、年に20本近い作品を撮る売れっ子に。ドタバタだけの喜劇俳優とは違う、渋さの中に独特のユーモアをたたえた「飄逸（ひょういつ）な演技派」として評価が高まった。

また、再放送を含め、57年から2008年3月まで2千回以上放送が続いたNHKラジオ「日曜名作座」では、間の取り方に工夫を凝らした巧みな朗読で新境地を切り開いた。

61年には「森繁劇団」を旗揚げし、演劇へのこだわりを見せた。とりわけ、ミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」のテヴィエ役は、67年の初演以来、19年間に上演900回を重ねる代表作となった。

音楽でも才を発揮した。「知床旅情」で作詞



・作曲の異能を示し、歌手としても「森繁節」と呼ばれる独特の節回しでファンを魅了。映画、舞台、テレビ、ラジオとあらゆる分野に輝かしい足跡を残し、大御所といわれるようになってからも第一線で活躍し続けた。

56年にブルーリボン賞と毎日映画コンクールの主演男優賞をダブル受賞した後、NHK放送文化賞（65年）、菊池寛賞（74年）、菊田一夫演劇大賞（76年）などを受け、84年に文化功労者となり、91年に文化勲章を得た。

ヨットが好きで、91年に念願の日本一周を果たした。故・伴淳三郎氏の後を継いだ「あゆみの箱」の会長や、「アフリカへ毛布をおくる会」の会長など慈善運動にも力を注いだ。芸風そのままのひょうひょうとした文章家としても知られ、「品格と色気と哀愁と」「海よ友よ」など多数の著書がある。